

企業サイト作りのワークフローを見直そう！

～コンテンツマネジメントという考え方～

大重 美幸 テクニカルライター

「詳しくはホームページへ。」—これが4～5年前ならホームページはそれこそTV CMを打てるような大企業が広告費の一部で制作する「試み」だった。しかし今では、消費者は見聞きした商品をインターネットで検索して確かめ、学生は就職先をWebで探すのが当たり前になっている。もはやホームページは余裕ある企業の試みではなく、一般消費者向け商品を作っているように、大都市圏はもとより地方の中小企業にとっても生き残りの生命線といっても大げさではない。米国ではGoogle検索でヒットしない企業は、この世に存在していないに等しいと言われるほどだ。

その有用性から、あるいは危機感から中小の企業にも自社のホームページをもつ会社が増えてきたわけだが、ホームページは作ることより、それを運用することがいかに大変であるかをほどなく知ようになる。

企業のWeb担当者にとっての最大の悩みはページの更新だ。即時性というホームページの最大の長が逆に情報の古さや不確かさを際立たせてしまう。むろん、Web担当者としてはホームページを常に新鮮でタイムリーな内容にしたいと願うわけだが、企業の顔としてのホームページを素人仕事で作るわけにも行かず、Web制作会社にホームページ制作を依頼しているケースが少なくない。

しかしそうすると、きっちり作られていなければならないほど素人が手を入れられるものでは

なくなっていて、自社のホームページでありながら外注を通さないと内容を更新できないはめになる。Web制作会社とのやり取りが発生する更新作業は時間も予算も必要になり、「次回のリニューアルの時にまとめて……」と1年に1回更新できればマシという状況に陥ってしまいかねない。さらにやっかいなことに、Web制作会社にはバイト君が多かれ少なかれ働いていて、また、諸事情から制作の一部を社外に依頼することが日常的に行われている。ホームページは公開が前提になっているとは言え、公開前の社内情報を野放しにできるものではない。

問題解決のためのワークフロー

こういった事情から、ホームページ作りにCMS(コンテンツ・マネジメント・システム)を導入する企業が増えている。CMSを使えばホームページの更新を企業内の担当者レベルで行うことができ、更新のタイミングも思いのままだ。

今年度のアックゼロヨン・アワード2007(日本ウェブ協会主催 <http://www.acc04.jp/>)の一次審査員を務めたので

エントリーの180余りのサイトを集中的に見たのだが、企業サイトのほとんどはCMSを利用してはいた。

CMSとはデータ入力画面でページに表示するテキストや画像を入力するだけで、ホームページが作られるサーバーアプリケーションだ。データ入力画面にもWebブラウザでアクセスするので、Web担当者はいつでも自分のパソコンから入力作業が行える。これだけだと普通のブログシステムと大差がないようにも思えるが、ブログはあくまでも個人利用目的なので複数のスタッフが更新作業を行うといった運用面に十分には配慮されていない。

CMSの導入は、ただ単にホームページ作りが簡単というだけでなく、これまでとはホームページ作りのワークフローが大きく変化する点に注目したい。それはコンテンツマネジメントという考え方だ。CMSを使わない場合、先にも書いたようにページ更新作業にもWeb制作会社の力を借りることになり、タイムリーなページ更新が難しい。

一方、CMSを利用すると社内の各部署の担当者レベルでページ更新が可能となり、社内の責任者がチェックしてOKならば公開というワークフローを実施できる。取り扱うデータを切り分けられるので、安心して一部分を外部スタッフに依頼することもできる。

安価なレンタルCMSの落とし穴

CMSを導入したい場合、サーバープログラムを共有レンタルするASP方式のCMSと自前でCMSサーバーを用意する方法がある。どちらもホームページ

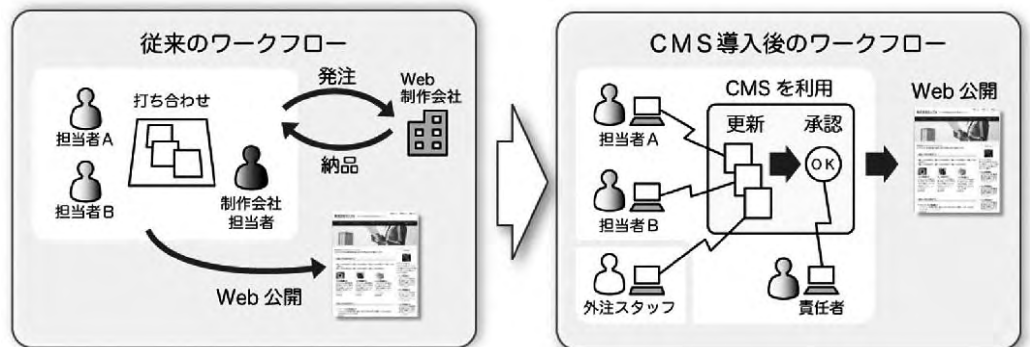


図1 CMSのワークフローは、コンテンツマネジメントという考え方に成り立っている



図2 WebRelease 2とテンプレートがMac miniにインストール済みのEZ-CMSオールインワンパック

を公開するためのWebサーバーを別に用意する必要があるが、レンタルCMSはほとんどの場合がWebサーバーと抱き合わせになっていて、当然ながらレンタルCMSのほうが手軽で利用料金も安価で済む。

しかし、安価なレンタルCMSには落とし穴もある。まず、共用システムであることから共用利用者の利用状況に影響され動作が不安定な場合がある。無料のオープンソースを利用したCMSだった場合、ハッキングされるリスクが高く、将来の対応なども未知数。新しい事業なだけにレンタル会社が突然廃業するリスクを抱え込むことも忘れてはならない。リスクマネジメントを問われるところだ。それに月額費用は安価であっても、長い年月で考えると必ずしもコスト的に有利とは言えない。なにより、スタッフ権限や進捗・公開の管理などのコンテンツマネジメント機能が十分ではないことがあるので注意が必要だ。

すぐに使えるCMSパッケージ

自前CMSサーバーを用意するなら、国内シェアNo.1のCMSソフトWebRelease (以下WR2。http://www.frameworks.co.jp) はどうだろう。

WR2はスタッフ権限の管理をきめ細かく行えるのが特長で、ページを更新保存しても公開権限をもったスタッフでなければそれを公開できないとか、フォルダごとにスタッフを制限できるなど、部外者が混ざったスタッフ構成であっても安心して仕事を任せられることができる。

また、公開日時と公開終了日時を指定しておけば、事前に準備したページをキャンペーン開始に合わせて公開し、キャンペーン終了に合わせて公開を終

了するといったことが自動で行え、ホームページをタイムリーに更新したいという要望も解決できる。Webページはすべて静的HTMLファイルに書き出されるので、気がかりな検索ランキングのSEO対策にも万全に対応できる。

と紹介したもの、実際のところ自前CMSサーバーは敷居が高いのは事実だ。WR2であっても最初のテンプレート作りは経験と専門知識が必要で簡単

には始められない。そこでお勧めなのがINTERWORK EZ-CMSオールインワンパック (http://www.ez-cms.jp)だ。EZ-CMSはWR2の100種類のデザインを納めたテンプレート集で、オールインワンパックでは最初からMac miniにWR2とEZ-CMSがインストールされた状態で販売されている。会社のホームページにCMSを検討している担当者は、候補の1つに入れてみたらどうだろうか。



図3 EZ-CMSのデータ入力画面。入力フィールドに文章を入れ、写真ファイルを選ぶだけでホームページを更新できる



図4 EZ-CMSで作ったホームページのサンプル。詳細ページを更新すれば、目次ページも自動的に更新される